

平成28年度第2回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
(資料評価部会 典籍・文書部会)
議事録要旨

平成29年1月31日(火)
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後3時21分開会

富岡文化施設担当課長：それでは、定刻前ですけれども、皆様おそろいいただきましたので始めさせていただきます。

改めまして、本日は、皆様大変お忙しい中、御出席いただきまして、どうもありがとうございます。

ただいまから「平成28年度第2回東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会（資料評価部会 典籍・文書部会）」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部の文化施設担当課長をしております富岡と申します。本日、司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会ですけれども、収集部会と評価部会がございまして、収集部会は、江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会となっておりまして、また、今回の評価部会につきましては、収蔵品の価格について委員の皆様には評価をしていただく会となっております。

なお、本日午前10時から収集部会を開催いたしまして、当部会でお諮りする案件については、収蔵するのが適切であるという意見を頂戴してございます。

本日の評価部会ですけれども、都民の財産となる貴重な資料でございますので、価格評価のほう、ぜひよろしくお願いいたします。

初めに、東京都江戸東京博物館の小林副館長から御挨拶を申し上げます。

小林副館長：本日は、東京都江戸東京博物館にお越しいただきまして、まことにありがとうございます。副館長の小林です。

今も御説明がありましたけれども、午前中の収集部会において、付議する資料全て、当館に収蔵するのにふさわしい、適切であるということが承認されました。

この評価部会は、典籍や古写真といった記録性のある歴史資料を中心に価格面での御評価をお願いすることになっております。

いずれも、常設展示室あるいは特別展、展覧会等々での活用が十分に可能でありまして、江戸東京博物館に必要な資料と考えております。厳しい博物館運営と限られた予算の中で、厳選した資料収集に努めてまいりました。

本日は御審議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

富岡文化施設担当課長：続いて、本日御出席いただきました委員の皆様を紹介させていただきます。私の向かって左側から順に紹介をさせていただきます。

まず、湯浅委員でございます。

続いて、吉田優委員でございます。

沓澤委員でございます。

吉田成委員でございます。

なお、常任委員の山本委員ですけれども、事前に御欠席という連絡を頂戴してございます。

続いて、事務局職員を紹介いたします。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の新田でございます。

よろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、当部会の公開について説明をさせていただきます。

当部会ですが、東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱第12の規定によりまして、原則公開となっております。そのため、委員の皆様のお名前と現職名については、東京都のホームページ上で公開をさせていただいております。一方で、当部会におきます評価対象資料の価格評価に関する議事については非公開となっております。

なお、当部会の議事録につきましては、資料収集が決定した後に公開をしております。公開に当たりましては、事前に内容を皆様に確認させていただいてからと考えてございます。また、委員の皆様、個別の価格評価については非公開となります。

それでは、議事に入っております。

まず、新田課長から本日評価いただく資料の説明をしていただきます。よろしくお願いいたします。

新田事業企画課長：では、御説明差し上げる前にお手元の資料の御確認をお願いいたします。

一番上にあるのが会議次第、A4縦版で委員名簿、「平成28年度第2回資料収蔵委員会（資料評価部会 典籍・文書部会）説明資料」、これが両面印刷で1枚でございます。

そして、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」、ホチキスどめのものが2枚でございます。あと、A3縦版で「平成28年度第2回資料収蔵委員会（典籍・文書部会）評価票」がございます。1枚です。

そして、A3横版で「平成28年度第2回資料収蔵委員会資料（資料評価部会 典籍・文書部会）」、こちらはホチキスどめで表紙と本紙の2枚つづり、あとはパンフレットなどが入りました封筒でございます。遺漏等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、本日御評価いただく資料の説明に入っております。説明資料をもとに説明させていただきます。

まず、1番目ですけれども「東インド会社遣日使節紀行」でございます。

こちらは、オランダのカルヴァン派教会の牧師で歴史学者でもあったアルノルドゥス・モンタヌスが、遣日オランダ使節の参府日記などをもとにして書いた、日本の歴史や風俗に関する研究所で『日本誌』とも称されております。1669年にアムステルダムで、オランダ語の初版が刊行され、翌年には英語版と仏語版が出版されました。

モンタヌス自身は日本に行った経験がなく、挿絵も想像で描かれたため、日本の実像とはかけ離れた内容も多く含まれますが、大坂の陣による豊臣家の滅亡や1657年（明暦3年）の明暦大火などについて触れられていることが注目されております。17世紀のヨーロッパ人が日本をどのように見たのかを知ることができる、有名な資料の一つでございます。

当館では、常設展示「江戸城と町割り」などで明暦大火を紹介する資料として英語版の

挿絵を展示しておりますが、今回、オランダ語の初版本を収集することで展示の幅を広げることができるようになります。また、海外交流史研究の基礎的な資料としての活用を見込むことができます。

2番目「THE HISTORY OF JAPAN（日本誌 英語版）」です。

ドイツ人医師で博物学者であったエンゲルベルト・ケンペルが記した日本研究の書です。ケンペルは、オランダ商館付の医師として元禄3年に来日し、出島に滞在、元禄4年と翌年の2度にわたり江戸へ参府し、将軍徳川綱吉に謁見いたしました。帰国後、ケンペルは日本滞在中に集めた資料や自身の参府経験をもとに「今日の日本」という原稿の執筆に取り組んでいましたが、完成を見ぬまま死去することになりました。

その草稿は、彼の遺品を買い取ったイギリス人収集家の手によって、ロンドンで『THE HISTORY OF JAPAN』という表題で出版されました。その後、フランス語、オランダ語版にも翻訳され、ヨーロッパじゅうの知識人の間に広まっていきます。日本においても、蘭学者志筑忠雄が本書のオランダ語版の巻末付録最終章を翻訳し、表題を『鎖国論』と名づけたことで知られております。

本書には、日本の文化や自然に関するさまざまな挿絵がありますが、特に江戸城内での将軍謁見の図が有名です。

今回付議するものは、英語版初版の第二刷でありますけれども、初刷にはなかった第二補遺がおさめられております。常設展示「江戸城と町割り」「文化都市江戸」などの展示や研究資料として活用してまいりたいと存じております。

続いて、リストの3番から9番目ですけれども「古写真」でございます。

東京のモニュメント的な風景を撮った古写真です。裏面に英語のタイトルが書かれており、もともと海外にあったものでございます。

上野寛永寺は、戊辰戦争により伽藍の大部分が焼失し、徳川家霊廟も明治初期に整理をされ、一部が取り壊されましたが、この写真は整理前の霊廟の様子を撮影した貴重なものです。同一イメージの写真が霞会館、東京国立博物館に所蔵されておまして、本写真もこれと同じ原版からプリントされたものと考えられます。撮影者は不明ですが、横山松三郎か内田九一の可能性が高いと考えられます。

筋違御門と八ツ小路の風景は、明治6年に石造りの万世橋がかかる前に撮影されたものです。撮影者は不明ですが、下岡蓮杖がこれと似たようなアングルで撮影した東京風景の写真を残していることから、下岡の可能性がございます。

フェリーチェ・ベアトが撮影した「十二社の滝」は、現在の東京都新宿区西新宿にあった熊野神社の境内にあった滝です。明治26年の淀橋浄水場建設に伴い、この滝は消失いたします。

いずれも、江戸から東京への移り変わりを端的に示す貴重な写真でありますため、常設展示「江戸から東京へ」などで活用していきたいと考えております。

説明は以上でございます。

何か御質問、御意見などはございますでしょうか。

富岡文化施設担当課長：もし何かございましたら、後ほどでも質問などをしていただければと思います。

続いて、本日の評価方法について説明をいたします。

評価票に金額を記載していただきまして、さらに署名をしていただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残り価格の平均値を本委員会、当部会の評価額とさせていただきます。

こちらについては、何か御質問などはございますでしょうか。

あとは書いていただく際に、もし何かございましたら、そのときにお尋ねいただければと思います。

それでは、資料の実物を確認していただきたいと思いますので、皆様、御移動いただけますでしょうか。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

富岡文化施設担当課長：それでは、議事を再開させていただきます。

資料をごらんになって、何か追加で御質問等がございますでしょうか。大丈夫でしょうか。

そうしましたら、お手元の評価票に価格と御署名をお願いいたします。金額につきましては消費税込みとなりますので、よろしくをお願いいたします。最終的にはペンで記載していただければと思います。

記入がお済みになりました方は、合図していただければ係の者が確認をさせていただきます。確認が終わりましたら、終わった方から御退席いただいて結構でございますので、よろしくをお願いいたします。

(評価票記入)

午後 4 時 5 分閉会

以上